

膀胱全摘除術回腸導管造設術を受けられる

様へ

説明医師

看護師

月日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日	
経過	手術3～2日前	手術前日	手術当日（手術前）	手術当日（手術後）	術後1日目	術後2～6日目	術後7日以降	
目標	○手術について理解し、準備を整えることができる ○手術について理解することができ、手術後の身体的変化を受け入れることができる		○心身ともに安定した状態で手術に臨むことができる	○術後合併症（出血・イレウス・感染）をおこさない ○合併症出現時早期発見対処される	○疼痛がコントロールされる ○閉塞なくカテーテルからの尿の排泄がある	○ストマ装具に慣れ、パウチからの尿破棄が行える（術後4日目から）	○術後合併症（イレウス・感染）をおこさない ○ストマに慣れ、ストマ装具の交換ができる	
検査	入院日に尿検査があります				朝、採血を行います レントゲン撮影があります  	手術後の経過をみるために、必要に応じてレントゲン撮影・採血などを行います  		
食事	低残渣食 朝食は自宅で  	食事はとれません   	  	  	  	  	  	
処置・観察	リストバンドを装着します（退院日まで装着します）	必要に応じ除毛を行います お臍の処置をします ストマを作る場所を決め、印をつけます	手術準備のために浣腸をします 点滴用の針を留置します 時間になれば看護師が手術室に案内します	・創部に管が2本入っています ・中心静脈（首）より持続点滴をおこないます ・酸素マスク ・背中から痛み止めの管がついています 手術の後は看護師が時間毎に観察に来ます 背中に挿入されている痛み止めの使用方法の説明をします 痛みが強い場合は、Nsコールで申し出てください		術後3日目看護師がパウチ交換を行います 術後6日目でパウチ交換を行います 中2日パウチ交換 ※面頬の溶け具合や皮膚の状態、装具の種類により交換間隔を設定します 中1日や中3日で交換することもあります 術後2日目に背中の痛み止めの管を抜きます 術後3日目に創部の管を1本抜きます 術後6日目に残りの創部の管を抜きます	術後7日目に創部の抜鉤をします 術後8日目に右尿管カテーテルと食事が摂取でき腸の動きや消化器症状（吐き気やお腹の張り）がなければ中心静脈点滴を抜去します 術後10日目に左尿管カテーテルを抜去します	
注射・内服	※いつも服用しているお薬のある方は確認しますので看護師にお渡しください 毎食後と就寝前に下剤を服用します 	昼に下剤（水薬）を2L服用します 就寝前に下剤を服用します エンシュアリキッドを毎食2本ずつ 		手術後点滴を持続的に行います 	持続点滴を行います  抗生剤の点滴（朝・夜）があります 	術後3日目まで抗生剤の点滴（朝・夜）があります  術後7日目で持続点滴は終了します 	術後8日目と10日目に抗生剤の点滴が朝にあります 	
行動	制限はありません シャワー・洗髪をしてください   	制限はありません お臍をきれいにした後、シャワー・洗髪をしてください   	浣腸の後、排便を済ませたら、シャワー浴をし手術着に着替え、弾性ストッキングをはいて下さい 入れ歯・時計・眼鏡・アクセサリは外して下さい    歩いて手術室へ行きます 	翌朝までベッド上安静です（頭は起こせません）が、下肢静脈血栓予防のため下肢を動かしてください 	医師の許可が出るまでは   看護師が清拭をします  医師の許可がありましたら部屋の中を歩きます 最初の歩行時は看護師が付き添います 1回10分1日3回以上ガムを噛んでください 	状態が安定し医師の許可がでたら、創部・点滴刺入部の保護をしシャワー浴をします 病棟内歩行を積極的にいきます   術後7日目まで、1回10分1日3回以上ガムを噛んでください 	隔日シャワー浴をします 歩行訓練が進み問題なければ検査は歩いて行きます  	
説明	医師より説明 療計画と手術について  看護師より説明 入院生活と手術前の療養上の注意点について、ストマ管理について パンフレットに沿って指導 ストマについてDVD鑑賞で学習 術後に使用するストマ装具を2枚購入  薬剤師より説明 薬について 	麻酔科医より説明 麻酔について  手術室の看護師より説明 手術について  看護師より説明 ストマ管理について パンフレットに沿って指導 		医師より説明 手術の結果について  看護師より説明 手術後の療養上の注意点について 		看護師より説明（術後4日目から） 装具からの尿の出し方について ※実際にストマをみてストマの色を覚えましょう ※装具交換時、看護師が手順を説明しながら行います（2回目の装具交換から少しずつ一緒に行いましょう）	看護師より説明 装具交換の必要物品について 交換時必要なロールガーゼの作り方、剥がし方、装着方法、ストマ周囲の拭き方、皮膚・ストマの観察、次回装具交換の目安 ※実際に装具交換を行っていただきます 不足部分や不安なところは看護師が説明いたします 水分を多めに摂るようにしましょう	医師・看護師より説明 退院後の療養生活について  

*入院に関して心配事がありましたらお申し出ください。
*入院時に栄養状態を評価して栄養管理計画を立てます。また、定期的に栄養状態の再評価を行い計画を見直します。
*この表はおよその経過をお知らせしたものです。種々の都合により、予定通りではないこともありますので、予めご承知ください。
*入院に際してこの用紙を必ずお持ちください。